



いやさか通信



弥栄町で活躍されている方、地域の出来事を紹介します！

移動販売車「なんなっと」

おく なおこ
奥 奈緒子さん

5月22日から弥栄町内で移動販売をされている奥さん。野菜・果物・お肉・惣菜・パン・お菓子・日用品等を軽トラックに積み、地域を回っています。

奥さんは、遠くのスーパーまで歩いて買い物をされているお年寄りを見て、何か力になれることがないだろうかと思い、自ら販売車を購入し、周囲の協力を得てこの活動を始められたそうです。

「将来の目標は、販売車の存在をたくさんの方に知っていただき、いつか京丹後市中を販売車が走るようになることです。また、この活動が地域の皆さんの交流のきっかけになればうれしいです」と、いつも笑顔で話す奥さん。

販売車は、事前のアンケートで希望された方のご自宅や介護施設を回られます。この取り組みが買い物弱者対策の一つとして、買い物に困っておられる皆さんの手助けになることを期待します。



商品のリクエスト等ありましたら
なんなっと教えてください！

※なんなっと…丹後弁で「何でも」、
「ご自由に」という意味

地域おこし協力隊

いなもと しんや
稲本 真也さん

弥栄町野間地域を拠点に活動されている地域おこし協力隊の稲本さんは、地域産木材を活用した木製品の製作を行いながら、森林保全の普及啓発に向けた活動をされています。昨年はモバイルハウスの製作に取り組みされました。

5月には、網野町島津の有限会社丹後木工所さんと協力し、コロナウイルスの影響で自粛中の子ども達のために積み木(100セット)の無料配布を行いました。SNS等で告知を行い募集したとこ

ろ、その日の内に品切れになり、市外からも問い合わせがあるほど関心を集めたそうです。

稲本さんはその他にも、丹後のために何かしたいという思いを持った有志のメンバーが集まる、



無塗装なので安心。右は現在制作中のランプ

All Tango Action(オール・タンゴ・アクション)の皆さんと一緒に、丹後出身で帰省自粛中の学生に京丹後産のお米を送る活動や、飲食店支援等丹後を応援する企画にも参加しています。

稲本さんは、「地域産木材活用の取り組みやコロナウイルス対策も、目先のことだけではなく長い将来を考え、協力隊としての任期が終了した後もこの活動が地域に残るように頑張りたいです」と意欲いっぱい話されていました。

地域News

吉野小学校の5年生9人がいものさと芋野郷赤米保存会さんから頂いた9種類の古代米の苗植え体験をしました。

例年は芋野区内の田んぼに入り、泥んこになりながら田植え体験をしていますが、今年はコロナウイルスの影響により実施が困難となったため、バケツ栽培で短時間での体験となりました。

た。子ども達は保存会会長の藤村さんから指導を受けながら丁寧に植えていました。

今後は総合的な学習の時間に古代米について深く学び、秋には古代米を使ったばら寿司作り体験も行う予定です。



藤村会長と子ども達



稲本さんとモバイルハウス